

参加報告書

福山大学 3年
広島県 2級審判員
近藤琢哉

1. 大会について

大会名：「第40回デンソーチャレンジカップ 刈谷大会」

主催：公益財団法人日本サッカー協会・一般財団法人全日本大学サッカー連盟

参加チーム：8チーム

2. 参加審判員・インストラクター

審判員 16名（北海道1名・北信越1名・東北1名・関東6名・東海1名・関西2名
中国4名・九州1名）

インストラクター 5名

（青山健太氏、赤坂修氏、大垣拓馬氏、柳岡拓磨氏、辛島宗烈氏）



3. 研修内容

1日目 関東選抜 B vs 日本高校選抜 主審

目標として「予測をしっかり行い、的確なポジショニングをとる」という目標の下取り組んだ。結果としては予測がずれた際にプレーが起きている争点と距離が出てしまい、正しい判定が行えない場面が出てしまった。結果として、試合結果に影響

する場面になってしまった。予測がずれた際のポジション修正を敵カウに行っていきたい。



2日目 U20 大学選抜 vs 関西選抜 副審1

目標として、オフサイドラインのキープを目標のもと取り組んだ。この日一番の争点となったのは、タッチジャッジの主審のコミュニケーションの中で、主審との認識の違いからベンチ前ということもあり、盛り上がってしまった。振り返りとしては、副審として主審に何を情報として伝えるのか、短く的確な情報を伝える必要があると感じた。

3日目 東海選抜 vs 関西選抜 副審1

目標として、副審の役割を的確に果たすということを目指して取り組んだ。主審との連携を大切に短いコミュニケーションの中で必要な情報を伝えることができ、エラー等も試合を通して発生することなく試合を終わらせることができた。



4日目 午前研修 午後社会貢献活動

研修では、SWOT分析、クロスSWOT分析を用いた、自己分析を行った。審判員としての強み、弱み、機会、脅威をそれぞれ分析し、自分自身に足りないものを分析した。また、午後は知的障がいを持った方々と参加している選手と一緒にサッカーをした。私自身知的障がいを持った方々とサッカーをするのは初めてだったが、サッカーという競技を通して、スポーツの素晴らしさを感じることができた。



5 日目北海道選抜 vs 東海選抜 4 th

この試合は負けた方が翌年プレーオフに回るという非常に難しいゲームだったが4 th としての確に主審のサポートをすることができたと思う。

4. まとめ

「第 40 回デンソーチャレンジカップ」に参加するにあたり、主催して下さった、全日本大学サッカー連盟の皆様、大会特別協賛されている、株式会社デンソーの皆様、開催地の刈谷市の皆様話はじめとした大会関係者の皆様、本当にありがとうございました。また、ご指導いただいたインストラクターの皆様本当にありがとうございました。今回の経験を自分自身の成長のためそして中国地域全体の審判員の成長のために共有してまいります。本当にありがとうございました。